



協働しながら目指すまちづくり

羽幌町長 舟橋 泰博

新年あけましておめでとござい
ます。

さわやかな平成18年の新春を迎え、
謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年中は、町民の皆様にあたたか
いご支援とご協力をいただき、心か
ら深く感謝を申し上げます。

さて、昨今の国内経済を見ますと、
「景気は緩やかに回復している」と言
われておりますが、地方では依然と
して厳しい状況にあります。

一昨年11月の町村合併協議破綻に
より、自立に向け歩み始めた本町に
とりましても例外ではなく、加えて
少子高齢化・過疎化の進行などが、今
後町政を進めていく上で大きな影響
を与えるものと懸念しております。

国と地方の財政政を見直す、三位
一体改革」など地方分権の推進に向
け、様々な改革が進められておりま
すが、住民に最も身近な基礎自治体
である市町村の役割の重要性は今後
益々高くなり、住民のニーズに応じ
た質の高い効果的・効率的な行政

サービスが求められていくものと思
えております。

この一年を振り返りますと、本町
においても厳しい行財政環境の下、
4月からは収入役を廃止し、課等の
統廃合により機構を縮小する傍ら、
自立プランの策定に取り組んでいる
状況であります。

こうした中、中心市街地活性化の
目玉として期待を寄せております商
業複合集客施設「ハートタウン」はぼ
ろ」が盛大にオープン致しましたが、
これが、地元における消費拡大の波
及効果となるよう期待を寄せており
ます。

又、永年の願いでもありました新
道立羽幌病院」が落成し、留萌中北部
の地域センター病院として診療が開
始されました。

これまでご尽力を賜りました関係
各位に深く感謝申し上げますと共に、
今後におきましても質の高い医療
サービスの提供がなされるものと、
大きな期待を致しております。

反面「幌北小学校」が44年の歴史
に幕を閉じ、地域の灯が又一つ消え、
寂しいものとなりましたが、同窓生
の皆様方の心には、この学び舎が
数々の思い出と共に、永遠に生き続
けることと思えます。

基幹産業である農林漁業のうち農
業では、水稲が順調に生育し、ここ数
年では最高の豊作となり、品質にお
いても1等米の8割が高品質米の出
荷状況になるなど、大変喜ばしい年
となりました。本年においても実り
多い年となるよう願っております。

漁業では、「北るもい漁協」が誕生
し2年目となりましたが、その水揚
げ状況を見ますと、漁協全体、羽幌町
内全体としてはエビ漁等の好調によ
り水揚げ計画の達成を見ることがで
き、大変喜ばしいことでありました。

しかし、離島地区ではヤリイカ・コ
ウナゴ漁の不振が続いており、又、漁
業を取り巻く内外の環境も依然とし
て厳しさを増している現状にありま
すことから、これらの状況に懸念し

ながらも、豊漁に期待を寄せており
ます。

観光面では、昨年からの全国的な
テレビ放映等により、国定公園天
売・焼尻」の知名度は確実にアップし
ましたが、「愛知万博」旭山動物園」
等の影響もあってか、期待していた
離島の入込み客は前年を下回るなど、
残念な結果となっており、今後に期
待を致しております。

本年も、依然として厳しい状況が
続き、幾多の困難も予想されますが、
自立に向けた新たな取り組みに対し
強い決意を持ち、汗を流し、知恵を
絞って町民の皆様と協働しながら、
「心と心のふれあいまちづくり」を目
指し、引き続き一層の努力をしてま
いりたいと考えております。

終わりになりましたが、皆様の深
いご理解と一層のご協力を賜ります
よう、お願い申し上げますと共に、
益々のご健勝とご繁栄を心からお祈
りいたしまして、新年のご挨拶とさ
せていただきます。



改革の成果を続けていく年に

羽幌町議会議長 森 淳

新年あけましておめでとござい
ます。

平成18年の輝かしい新春を皆様と
お迎えすることができ、心よりお慶
び申し上げます。

町民の皆様には、平素より町議会
に対するご理解とご支援を賜り、厚
くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと国内の景気・経
済は踊り場を脱し、穏やかな回復基
調にあり、国内総生産はプラス成長、
株価も5年前の水準へと戻っており
ます。しかし北海道経済は、依然とし
て厳しいままであり、雇用環境も好
転してない状況下にあります。

町内では、中心市街地活性化事業
の拠点施設「ハートタウンはぼろ」が
6月に、7月には地域住民待望の道
立羽幌病院が竣工、オープンしまし
た。又羽幌神社例大祭では初めて、御
神輿の海上渡御が勇壮にとり行われ
るなど明るい話題もありました。

本町の基幹産業であります農林漁
業のうち、農業は好天に恵まれ、主要
作物の水稲が近年まれに見る大豊作
となり、販売額は、一昨年の8億円を
超え10億円強の見込みであります。

新年も稔り多い年でありますよう
願っております。

漁業では北るもい漁協が誕生して
2年目となりますが、漁協全体での
11月末での販売水揚げ高は50億円を
大きく上回り、町内だけでも年間計
画24億8千万に対し、すでに27億3
千万となっており、町内では最も明
るい産業であります。しかし魚価安
や重油の高騰に加え、天売・焼尻の春
漁が不振の記録を更新するなど、今
後の不安材料もあります。永年に
亘るご努力が実を結びつつあり、新
年も大いに期待しております。

商工業と観光につきましては、大
変厳しい環境に置かれておりますが、
関係団体と行政が、連携をとり現状

を打開し、明るいうちになるよう願っ
ております。

さて行財政面においては、国と地
方の関係を大きく見直す三位一体改
革の骨格が明らかになってきました。
三位一体改革とは、本来地方の実情
に応じた事業が自主的・自立的にで
きるように、地方への国の関与を廃
止・縮減し、地方の権限と責任を大幅
に拡大するという地方分権を推進す
る観点から、国庫補助負担金の改革・
国から地方への税源移譲・地方交付
税の改革の三つを一体的に行うもの
です。しかしこれまででは地方の裁量
拡大や税財源の充実に繋がらない不
十分な改革にとどまっております。

現在は、全国町村議長会を含む地方
6団体の国との粘り強い交渉の結果、
3兆円の税源移譲を実現するなど
徐々にではありますが真の地方分権
に近づいてまいりました。

羽幌町についても、新しい地方の
時代に対応すべく不連続の改革を続け
ていかなくは生き残ることが難し
くなります。すでに行政機構再編な
ど実施されたものもありますが、更
に見直しを進め、政策・財政・運営の
3つの計画を連動させ、成果を上げ
て行かなければなりません。

議会といたしましても、こうした
状況に因應するために、平成19年から
の議員定数の削減など更なる改革を
進めてまいります。又、多くの諸課題
解決のため、行政と連携をとり、町民
皆様の生活安定・福祉向上に向け、新
年も最大限の努力をいたす所存であ
りますので、どうか一層のご支援と
ご協力を賜りますとともに、皆様方
の益々のご健勝とご繁栄を心からお
祈りいたしまして新年のご挨拶とい
たします。